

トライアルの結果（案）

【事務局】

こちらがトライアルの結果になります。WGの備忘録として作成をするものです。一読いただき、この結論でよいかご意見をお願いいたします。

頂戴したコメントを受け追加した修正を赤字の見消しで記しています。

ぶり類にマクロライド系抗菌性物質を動物用医薬品として使用した場合に選択される薬剤耐性菌について、トライアルを実施した結果、「家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針（平成16年9月、令和4年3月改正）」（以下「評価指針」という。）が概ね養殖魚においても適用可能であることを確認した。

ただし、情報不足によりトライアルを実施できたのは、ぶり類とマクロライド系抗菌性物質の組み合わせのみであり、他の魚種（特に淡水魚）や抗菌性物質の組み合わせで実施した場合、異なる考え方を要する可能性は否定できない。また、畜産と比べて、対象となる魚種及びその養殖手法が多岐にわたるため、ケースバイケースでの判断が求められる可能性があることも確認した。

また、養殖水産魚の評価を実施するにあたり、少なくとも以下1.の点のとおり評価指針を修正する必要がある。

さらに、情報提供元である農林水産省に対する推奨事項も以下2.のとおり確認する。なお、推奨事項については、事務局を介して農林水産省に提示する予定。

1. 評価指針の改正

(1) 概要（I. 評価の経緯及び範囲等）

① 対象動物に関する記載を追加する

- ・養殖状況（養殖形態や飼養期間、季節性等の基本情報）
- ・養殖と天然の漁獲高/流通の割合
- ・主な養殖場所や産地等

② 適応症に関する記載を追加する

- ・発生する魚種
- ・原因菌（血清型など）
- ・疾病の性格（ワクチンの有無、発生数の推移等）
- ・投薬方法（投薬時期、使用方法等）

【浅井専門委員】

1 (1) ②について、投薬が疾病の種類（発生状況、投与時期、投与対象、投薬方法など）によって異なるのか整理した方が良いと思います。

(2) ハザードの特定 (II. ハザードの特定に関する知見)

① 発生の格付けに関する考え方の変更

耐性菌の検出報告が少ないため、水圏を本来の生息域とせず、明らかに評価対象抗菌性物質の耐性獲得が水圏では想定できないにばく露しない細菌を除いて全て「A」とする。

② ばく露の格付けに関する考えた方の変更

感染症法の対象菌以外もリストアップの対象とする。

【浅井専門委員】

1 (2) ①について、細菌種別の調査成績も少ない状況です。指標菌的な候補菌種（耐性菌の割合が暴露の頻度や程度を反映しそうな細菌）に関する情報収集が必要です。

また、「明らかに評価対象抗菌性物質にばく露しない細菌」とはどんな意味でしょうか。

【木村専門委員】

1 (2) ①について、以下のとおり修正したほうが良いと考えます。

【耐性菌の検出報告が少ないため、水圏を本来の生息域とせず、明らかに評価対象抗菌性物質の耐性獲得が水圏では想定できない細菌をのぞいて、全て「A」とする。】

理由：現在、資料1で一律にA評価になっている細菌のほとんどが、水圏で増殖する細菌ではありません。したがって、薬剤耐性遺伝子を水圏で獲得するとは想定できません。一方、修正文章では、事務局文案より具体的に除外規定を明確にしています。修正文章案を適用すれば、資料1でA評価になっている細菌の大半を除外できます。

【事務局】

「明らかに評価対象抗菌性物質にばく露しない細菌」とは、具体的に人の体内にしか存在しない菌や、その水圏に存在しない菌（淡水・海水）については「C」とすることを想定しています。木村先生より頂戴したコメントを反映し、明確化をいたしました。

(3) その他

薬剤耐性遺伝子の伝播や水圏環境から受ける影響についても可能な範囲で勘案する。

2. 農林水産省に対する推奨事項

(次回までに整理をして先生方にご審議をいただく予定です。)

- 養殖魚の薬剤耐性菌のモニタリングを継続するとともに、必要に応じて魚種や対象菌種を見直し、養殖魚の耐性に関するデータを充実させること。
- 特に魚介類を原因とする食中毒の報告について、幅広く公表論文などを収集すること。
- 健康魚のモニタリングを継続すること。

【浅井専門委員】

畜産分野で流行っていますが、投薬後の耐性菌の出現状況や特定養殖場での経時調査についても取り組んでもらうと思います。

【小西専門委員】

現在、継続的に行っている養殖魚モニタリングの対象菌種は *L. garviae* および *Vibrio* 属菌となっています。

腸炎ビブリオによる食中毒は減少しており、現状、感染者数も少ないと考えられますが、海産物→人への病原菌を考えると、腸炎ビブリオは無視できません。

そこで今後、可能であれば健康魚由来腸炎ビブリオのデータを追加していくことも必要であろうと思いました。またヒト由来株のデータも同様です。どこが、どのように行っていくかについては、現段階で具体的な提案はできませんが、データを追加していく方法等を考えていくべきだと思います。

【福田専門参考人】

資料4、WGの結論(案)につきまして特に意見はございません。